

日中間のファイル転送高速化がけん引する事業拡大戦略

2012年に、設立40周年を迎えるアニメーション制作会社の旭プロダクション様。同社は代表作となる「機動戦士ガンダム」シリーズを始め、「はじめ人間ギャートルズ」や「侍ジャイアンツ」、最近では「銀河へキックオフ!!」「エリアの騎士」などといったアニメーション作品の撮影業務手掛け、確固とした実績を誇る老舗でもある。

その同社が2012年2月にSkeedSilverBullet™を導入し、中国・無錫にある拠点とのファイル転送を高速化したことで生産量が倍増、事業拡大に大きく寄与している。

課題

- 日中間のファイル転送遅延が、事業拡大戦略上の鍵となる中国拠点活性化のネック
- 中国拠点の生産量が伸びない
従業員のモチベーションも低下

検討プロセス

- 2011年秋から本格調査を行い、高速ファイル転送プロトコル活用製品を有望視
- 検討対象となった米国ベンダーの2製品に比べSkeedSilverBullet™は以下の点で優位
 - FTPライクな操作性で現地中国人スタッフも直ぐ使用可能
 - 圧倒的な価格差（米国2製品はともに200万円～、SkeedSilverBullet™は50万円～）

導入効果

- 通信速度が10倍に向上（FTP:500～1Mbps→SkeedSilverBullet™:10Mbps以上）
- 中国・無錫から日本へのファイル転送が4～5時間から数十分～1時間に短縮
- SkeedSilverBullet™導入前から生産量が倍増、今後は5倍まで増加を計画
- 納期遵守の信用向上
- 従業員のモチベーション向上



■日中間のファイル転送の課題が事業拡大の最大のネック

旭プロダクションが主要業務とするのは、クリエイターが描いたアニメーション画像を纏める「撮影」と呼ばれるパートになる。これはCG業界でいえば「コンポジット」、その他の業界では「映像加工」ともいわれる。また、作業工程としてはこの後、「編集」といった段階があり、分業の進んだ業界といえる。

このアニメーション制作分野は早くから海外委託が進んでおり、特に前段階のアニメーションの画を描く部分などは50%以上が海外での制作といわれる。この流れは後工程となる「撮影」業務にも及び、人件費・知財などを踏まえたコスト効率化、更には海外市場進出を睨み海外シフトは加速するばかり。旭プロダクションも2004年に中国・無錫にグループ会社を設立している。

ところで、アニメーション業界は2008年のリーマンショック以降、制作本数が大きく落ち込んでいた。同社技術部のシステム担当を兼任する濱雄紀氏によると「当社の主要業務である撮影の中のサブジャンル『線撮』という工程では利益がでない状況が続いていました。ただ、昨年当りからようやく回復基調となり、今後の事業拡大戦略を描く上で鍵になるのが中国ということに気付いたのです」

反転攻勢する上で中国・無錫の拠点を如何に活性化させるか。その際、例えば現地従業員のクオリティについては当初より教育を施しており、リテイク（やり直し）の指示を出すことは1%を切るほど向上しており、国内で作業するのと全く変わらなくなっている。但し、1つだけボトルネックがあった。それがファイルデータの送受信である。

株式会社 旭プロダクション 様



株式会社旭プロダクション
技術部
撮影監督 / システム管理

濱 雄紀 氏



株式会社旭プロダクション

本社：東京都練馬区関町北 2-2-10

創立：昭和 48 年 6 月 1 日

資本金：6,160 万円

業務内容：アニメーション、CGI 等各種映像
の企画・制作・撮影、CF、TV 番組、映画、
企業 PR、Web 等の企画・制作

■選んだ理由は操作性、圧倒的なコストパフォーマンス

濱氏によると日中間の回線環境はまだまだ満足のものではないという。「データトラフィックは実は国内に比べるとかなり少なく、多くても 1 日 10GB 未満。しかし、中国は一般家庭で契約するインターネット回線は 2~4Mbps。100Mbps を契約するには 3500 元（約 5 万円）します。中国の貨幣価値は日本の 1/5 位なので、日本の感覚でいえば毎月 25 万円必要ということになってしまい、未だに厳しいのが実情」「感覚としてはかなりパケットロスがあるように思います。というのも、中国国内では体感レベルはそれほど遅くないのに、日本に行った瞬間に遅くなるんです」

そこで、当社ではこの解決のために 2011 年秋から本格的に調査を行い、高速ファイル転送プロトコルの採用が有効策だと分かった。

「高速ファイル転送プロトコルを使った製品としては他に、米国の 2 社も検討しました。ただ SkeedSilverBullet™ の方が操作が簡単で、FTP のインターフェースに似ていることもあり現地中国スタッフもすぐ使えました。また、なんといっても安価でした。他の 2 社製品は共に 200 万円からのスタートでしたが、SkeedSilverBullet™ は 50 万円からという価格設定だったので全く勝負になりませんでした」

■ファイル転送が 10 倍に高速化したことで既に生産量は倍増、今後は 5 倍増を目指す

SkeedSilverBullet™ の採用により、以前は FTP で 500kbps~1Mbps 程度だった通信速度が、10Mbps に向上、4~5 時間掛っていたファイル送信が今は数十分~1 時間以内に送れるようになった。「現地から日本にむけての送信時簡帯は概ね夕方ですが、例えば午後 6 時に流せば午後 7 時には現地スタッフたちは帰宅できます。以前はアップロード終了が午後 11 時に降になり、バスなど公共交通機関がなくなりプロジェクト担当者は電動バイクで通勤せざるを得ず従業員のモチベーションも低下していました。それが同じ残業でも生産量が上がり利益が出せるようになったのです。更に、生産量を増やしてもファイル転送というボトルネックが解消されているので問題なく対応できるため、信用向上にも貢献しています」（濱氏）今後、中国の通信環境が改善されれば回線帯域を使い切る SkeedSilverBullet™ の能力は更に引き出されるため、生産性の一層の向上が期待される。因みに、中国・無錫での生産量は既に SkeedSilverBullet™ 導入以前に比べ倍増しており、今後は約 5 倍にまで高める計画という。

■首都圏の大容量ファイル転送にも SkeedSilverBullet™ を活用

また、同社では日中間とは別に国内、それも首都圏内で SkeedSilverBullet™ を使った実験を行っているという。「FTP はアニメ業界で非常に普及しているプロトコルですが、それよりも非常に優れているので、一刻を争うような納品作業で使えればと思っています。納品先はポストプロダクションやテレビ局などですが、これまで FTP では送れなかったため HDD に保管して自動車で届けていました。しかし、この方法では自動車の購入・維持コスト、ガソリン代や交通事故の心配がありましたので、ネット越しに転送できる効果は大きいと期待しています」（濱氏）

アニメーション業界のボトルネックを次々と解消していく SkeedSilverBullet™。貢献の余地はまだまだありそうだ。